

平成25年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Aグループ

提案内容	提案名	鯖江学園～過去と未来へのタイムスリップ～	
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Aグループ	
	提案内容	市内小中学生と市外から来た大学生がお互いの授業を体験し交流を図る	
提案内容	概要	<p>◎学校の枠組みを利用した小中学生と大学生(ゼミ単位)の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内の小学校で授業を行い合宿所や個人宅に宿泊→より深い交流ができる <p>◎スペシャル授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学やゼミで学んでいることを活かした授業 →小中学生は大学生の雰囲気わかり、大学生は勉強の成果を発表できる ・大学の考え方が分かる検定問題を出す 例)磯野家(サザエさん)の遺産はどう相続されるかわかりますか(法学部) <p>◎リピーター獲得のしくみ</p> <ol style="list-style-type: none"> ①卒業プレゼン:合宿最終日に思い出を発表 ②卒業アルバム:一日の授業の写真や絵、コメントなどを記入 ⇒卒業アルバムを見て思い出すきっかけになり、ゼミの恒例行事になる 	
	期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生と大学生の接点ができ、「人」という地域資源を通して鯖江を知ることができる ・小中学生も大学生も深く交流することで鯖江に愛着を持つ 	
具現化検討部署		学校教育課	生涯学習課
検討結果	判断	不採択	不採択
	採択内容		
	形態		
	採択年度		
	事業詳細または不採択理由	<p>小中学校の授業については、年間計画で決められており、現在の授業体制においては余裕がない状況である。</p> <p>また、鯖江に愛着を持つために、小学校では社会の時間で「わたしたちの鯖江市」の活用、産業体験学習、中学校では、職場体験、産業教育支援等の事業をとおして行っており、さらなる事業の導入は、児童生徒への負担が大きく、困難と考える。</p>	<p>現在、各地区公民館では、地域住民が地区の小中学生を対象に食事や生活面の世話をする「合宿通学事業」を開催しているが、あくまで、その目的は「地域の子供は地域で育てる」であり、外部からの学生を受け入れ、全地区で新たに合宿事業を行うことは、地域への負担が大きく、困難と考える。</p>

平成25年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Bグループ

提案内容	提案名	地産レストラン「さばえ農場」&早映えつつじロード			
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Bグループ			
	提案内容	道の駅に特産品を提供するレストランを設置し、商店街につつじを植える			
	概要	<p>◎地産レストラン「さばえ農場」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド野菜を気軽に食べることができる場所 場所：西山公園道の駅内→道の駅内の野菜直売所と良い循環関係 <p>◎早映えつつじロード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR鯖江駅から西山公園までの道のりをつつじで彩る →コンクリート製の大きめのプランターに植え、商店街の道沿いに設置する →植樹は「さばえ農場」を訪れた人にしてもらう <p>◎つつじおしろい祭り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街を歩行者天国にして季節ごとの小道具でつつじの飾りつけをする 例)春は風車、秋はハロウィングッズなど →つつじ開花時期以外も楽しめ、祭りが終わっても一定期間は残る <p>※明治大学成果報告会 鯖江賞(最優秀賞)</p>			
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・植樹したつつじの生育状態を見るためにリピーターが訪れる ・商店街を通ることで商店街に目が向き、活性化につながる 				
具現化検討部署		商工政策課	農林政策課	土木課	都市計画課
検討結果	判断	一部採択	不採択	一部採択	一部採択
	採択内容	商店街につつじを植える。 つつじおしろいまつり		つつじの絵を描き、楽しく、歩きやすい歩行空間を創出する。	道の駅でのブランド野菜の販売、野菜を調理した飲食物の提供、街なか情報の提供
	形態	既存事業に組入れ		既存事業に組入れ	既存事業に組入れ
	採択年度	開始年度未定	開始年度未定	開始年度未定	新年度(H26年度)から実施
	事業詳細または不採択理由	<p>商店街内では既に「街なか賑わいプラン」の事業として、商店街内歩道上に季節に応じ花壇整備やプランターに花を植え彩りを添えており、装飾(桜、七夕、もみじ飾り)やイルミネーション点灯(夏・冬)も商店街主体で行っている。</p> <p>既に実施している事業内容に提案内容が反映できないかどうか鯖江地区商店街連合会と協議、検討していく。</p>	<p>西山公園道の駅指定管理者候補者との事前協議の中で提案していくが施設の整備内容から食事等の提供は難しいと思われる。さばえ夢てまり、吉川ナスなどのブランド野菜については、季節ごとにイベント等で協賛を提案していきたい。</p> <p>現在、河和田の喫茶椀など地産地消メニューの提供は実施されている。</p>	<p>西山公園道の駅から商店街へは①R417(H28/バリアフリー化)、②商工会議所横、③笠島豆腐横、④地藏橋の4ルートがある。プランタでのつつじ植栽は道路幅や管理面で困難な点が多いため、観光協会や商店街とも相談のうえ、道路上にツツジの絵を描いたり、案内用のプレートを舗装に埋め込んだりして、回遊性のある道路整備に工夫する。</p>	<p>新年度(H26年度)から実施指定管理者と協議して、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産の野菜、特に鯖江ブランドの吉川ナス、菜花米などを販売するとともに、これらの農産物を使った食事のメニューを開発する。 ・西山公園(桜、つつじ、紅葉)を想起するソフトクリームを開発する。 <p>観光協会にお願いして、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誠市や御縁市など、街中のイベントや道の駅でのイベントを双方向で発信するなど、連携を図る。

平成25年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Cグループ

提案内容	提案名	「また会いに行きますツアー」		
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Cグループ		
	提案内容	市内中高生と市外から来た大学生が宿泊しながら市内の産業を体験する		
	概要	<p>◎鯖江市体験型ツアー「また会いに行きますツアー」 対象：市内の中高生、市外の大学生 →中高生は自分の住むまちについて思慮を深めることができる →大学生は魅力を知ることでもた来たいと思い、リピーターにつながる</p> <p>時期：5月のゴールデンウィークに2泊3日（宿泊先は古民家など） ツアーコース：眼鏡・繊維・漆器 ・1日目…産業体験、レポート作成 ・2日目…1日目に体験した産業以外を散策し鯖江紹介地図を作る ・3日目…2日間の活動発表会、畑に特産野菜を植える</p> <p>◎中高生から大学生へプレゼント ・メッセージカード、収穫した特産野菜、次回の招待状</p>		
期待される効果	<p>・大学生が産業・農業を体験することで鯖江市の魅力を直接感じることができ、Iターン、Uターンにつながる</p> <p>・中高生が地元に対して愛着を持ち、鯖江を訪れた人に対するおもてなしの心を持つことができる</p>			
具現化検討部署	商工政策課	農林政策課	学校教育課	
検討結果	判断	一部採択	不採択	一部採択
	採択内容	産業体験		
	形態	既存事業に組入れ		
	採択年度	新年度(H26年度)から実施	開始年度未定	
	事業詳細または不採択理由	<p>平成17年度より実施している河和田アートキャンプ事業において県外大学生を受け入れ、地域との交流を深めながら地場産業に触れる機会を設けており、現在までに9名の県外出身者が河和田地区に定住している。</p> <p>今後は、さらに都市農村交流事業との連携を図りながら、Iターンにつなげ定住人口の増加を目指したい。</p>	<p>県外の大学生の受け入れは現在、都市農村交流事業で行っており、市内高校生の農作業体験等は、提案型市民主役事業「さばえの味再発見事業」で実施しているが、高校は授業の一環であり調整して行うことは困難。実施についてはよく検討したい。</p>	<p>学校における授業、課外授業等以外の事業であり、学校が積極的に関われる事業であるとは考えにくい。</p> <p>生徒に対して事業のチラシなどを配布するなどの協力は考えられる。</p>

平成25年度 学生提案具現化にかかる関係部署検討調書／Dグループ

提案内容	提案名	「サバエステイ化計画！」	
	提案者	明治大学鯖江ブランド創造プロジェクト／Dグループ	
	提案内容	コンテストなどで鯖江を訪れる学生が市内10地区に宿泊して地域住民と交流する	
	概要	<p>◎サバエステイという宿泊形式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内10地区に分かれて有志宅もしくは公民館に宿泊 →市内で開催するコンテストなどの交流事業でサバエステイをする (現在は市内の宿泊施設や古民家を活用している) <p>◎対流交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が食事や生活面の世話をし、学生のプランづくりにも関わる →市民だからできるおもてなし、市民ならではのアドバイス <p>◎まちをあげた地域活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おらがまちのチーム」…地区総出でチームの応援→ボトムアップ型の活性化 ・かつての世界体操選手権鯖江大会のような雰囲気再構築 	
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民が積極的に交流に関わることで双方向の交流ができる ・より市民目線に立ったプランを作成することができる 		
具現化検討部署	市民協働課	生涯学習課	
検討結果	判断	不採択	不採択
	採択内容		
	形態		
	採択年度		
	事業詳細または不採択理由	<p>本提案が、従来の学生連携事業から一歩進んで、より地元に密着した「まちをあげた活性化」をめざしていることは評価できます。しかし、現状として当課が関与している市区長会連合会や地区区長会が、コンテストなどを含む交流事業を主催することは難しいと思われます。市や他の団体等が、地区の活性化などをテーマとした学生提案を求めるような事業を実施する場合に、市区長会連合会や地区区長会に協力依頼をすることは可能と思われますので、その際にはサバエステイ方式が実現できるよう協力してまいります。</p>	<p>現在、各地区公民館については、地域住民が地区の小学生を対象に食事や生活面の世話をする「合宿通学事業」を開催しており、延べ1738名の地域ボランティアが参加している。外部からの学生を受け入れ、全地区で新たに合宿事業を行うことは、地域への負担が大きく、困難と考える。既述の「合宿通学事業」に組み入れるにしても、学生の夏期休暇の時期には行えない事業であるため、実施困難である。また、地区公民館は宿泊施設ではないため、長期宿泊はできないと考えられる。</p>